

e ラーニングで学習する内容は以下となります。

学習内容		セーフティオフィサ 一般産業安全分野（SO-G）			セーフティオフィサ 建設安全分野（SO-C）		
		セーフティ エグゼクティブ （SE-G）	セーフティ マネージャ （SM-G）	セーフティ スタッフ （SS-G）	建設セーフティ エグゼクティブ （SE-C）	建設セーフティ マネージャ （SM-C）	建設セーフティ スタッフ （SS-C）
基礎安全学	安全の意味			○	○	○	○
	安全の大前提	○	○	○	○	○	○
	安全の定義	○	○	○	○	○	○
	リスクの定義	○	○	○	○	○	○
	安全目標	○	○	○	○	○	○
	ゼロからプラスへ 安全・健康　そして　ウェルビーイングへ	○	○	○	○	○	○
	ALARP の原則		○	○	○	○	○
	安全の基本的構造	○	○	○	○	○	○
	安全と価値観	○	○	○	○	○	
	安全における役割と責任	○	○	○	○	○	○
	安全と安心	○	○	○	○	○	
	リスクコミュニケーション	○	○	○	○	○	
	安全は時と共に劣化する		○	○		○	
	安全学の発想		○	○		○	
	製造業と建設業の比較				○	○	○
	建設の安全学の必要性				○	○	○
	基礎安全学のまとめ				○	○	○
経営安全学	経営の目的と安全	○	○		○	○	
	企業経営にとってのリスク	○	○		○	○	
	安全・安心に向かう時代の潮流	○	○	○	○	○	
	世界的な大きな潮流	○	○	○			
	企業トップの安全の役割	○			○		
	企業トップとしての安全の理念	○			○	○	
	企業の競争力は安全にあり	○	○	○	○		
	安全は価値だ	○	○	○	○	○	○
	安全投資	○			○	○	
	安全の費用対効果	○	○		○	○	
	安全性と生産性	○	○	○	○		
	ヒューマンエラーと教育	○	○	○	○	○	○
	事故対応	○	○		○	○	○
	マネジメントシステムとリスクアセスメント	○	○		○	○	○
	労働安全衛生マネジメントシステム	○	○	○	○		
	人材育成と安全資格者	○	○	○			
	安全文化の構築	○			○		
	未来安全構想	○	○	○	○		
	建設分野における経営安全学				○	○	○
	経営安全学まとめ	○			○	○	○
社会安全学	安全の社会制度	○	○	○	○	○	○
	安全のための法律と規制		○	○	○	○	○
	労働安全衛生法	○	○	○	○	○	○
	安全における保険制度	○	○		○		
	安全と責任	○	○	○	○	○	○
	事故調査の機構・制度	○	○		○	○	○
	安全の標準化と安全基準		○				
	認証・認定システム		○				
	防災と減災	○	○		○	○	
	利用者（消費者）安全		○			○	
	高齢者と子供の安全		○				
	サイバーセキュリティと IoT 技術		○				
	時代の変化とリスクの多様化		○	○	○	○	
	安全の新しい時代	○	○	○	○	○	
	安全は社会全体で創るもの	○	○	○			
	建設事業と社会安全学				○	○	○
	建設災害事例					○	○
構築安全学	エレベータ事故の概要	○	○	○			
	エレベータ事故の本質	○	○	○			
	こんにゃくゼリー事故の概要		○				
	こんにゃくゼリー事故の本質		○				
	福島第一原発事故の概要	○	○	○	○	○	○
	福島第一原発事故の本質	○	○	○	○		
	製品のライフサイクル		○	○	○	○	
	ISO/IEC ガイド 51 の目指すところ		○	○	○	○	○
	ISO/IEC ガイド 51 における安全思想		○				
	安全規格の体系化		○	○	○	○	○
	リスクアセスメントの考え方	○	○	○	○	○	○
	リスクアセスメントの流れ		○	○	○	○	○

学習内容		セーフティオフィサ 一般産業安全分野（SO-G）			セーフティオフィサ 建設安全分野（SO-C）		
		セーフティ エグゼクティブ （SE-G）	セーフティ マネージャ （SM-G）	セーフティ スタッフ （SS-G）	建設セーフティ エグゼクティブ （SE-C）	建設セーフティ マネージャ （SM-C）	建設セーフティ スタッフ （SS-C）
構築安全学	リスクの見積もり、評価		○	○	○	○	○
	リスク低減策・スリーステップメソッド	○	○	○	○	○	○
	本質的安全設計		○		○	○	○
	信頼性と安全性		○		○	○	○
	安全防护と付加保護方策		○				
	安全制御		○				
	機能安全という考え方		○				
	機能安全に関する国際規格		○				
	フルブルーフ		○			○	○
	フェールセーフ		○			○	○
	危険検出型と安全確認型		○			○	○
	ハイボールの原理		○			○	○
	レジリエンス	○	○		○	○	
	使用上の情報		○			○	○
	残留リスクの管理		○		○	○	○
	人間工学原則		○			○	○
	合理的に予見可能な誤使用について		○			○	○
	危害を受けやすい状態にある消費者		○	○			
	技術者倫理	○	○	○	○	○	○
	協調安全	○	○	○	○	○	○
	Safety 2.0	○	○	○	○	○	○
	和の安全と安全学	○	○	○			
	建設分野における構築安全学				○	○	○
	建設分野における リスクアセスメント実施例				○	○	○
	構築安全学まとめ				○	○	○

＊受講科目は適時変更・追加等行う場合があります

e ラーニングで学習する科目数および時間は以下となります。

安全四学	セーフティオフィサ 一般産業安全分野（SO-G）						セーフティオフィサ 建設安全分野（SO-C）					
	セーフティ エグゼクティブ （SE-G）		セーフティ マネージャ （SM-G）		セーフティ スタッフ （SS-G）		建設セーフティ エグゼクティブ （SE-C）		建設セーフティ マネージャ （SM-C）		建設セーフティ スタッフ （SS-C）	
受講科目数と受講時間	科目数	時間	科目数	時間	科目数	時間	科目数	時間	科目数	時間	科目数	時間
基礎安全学	11	約 70 分	14	約 95 分	15	約 100 分	16	約 105 分	18	約 120 分	13	約 90 分
経営安全学	20	約 120 分	14	約 95 分	9	約 70 分	19	約 110 分	12	約 70 分	6	約 40 分
社会安全学	9	約 65 分	15	約 80 分	7	約 40 分	11	約 80 分	12	約 90 分	8	約 70 分
構築安全学	10	約 85 分	33	約 210 分	15	約 105 分	19	約 145 分	25	約 175 分	23	約 160 分
合計	50	約 340 分	76	約 480 分	46	約 315 分	65	約 440 分	67	約 455 分	50	約 360 分